

GW キャンプ 2016

O.C.C (アウトドア・チャレンジ・キャンプ)

5月3日(火) ~ 5月5日(木)

IN 京都市立花背山の家

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	レクリエーション大会	釘ナイフ作り
2日目	野外炊飯	グループタイム	キャンプファイヤー
3日目	清掃・工作	施設を出発・解散	

一日目： 今年で二回目となりました。今年のテーマは「備えよう」です。様々な技術や知識を、キャンプを通して学んでもらいます。全体集合し、挨拶、グループ分けを行うとお決まりのハイキングをスタートさせました。天気はくもりと比較的歩きやすい環境でした。はじめましてのメンバー同士のため初めはあまり会話が生まれず、黙々と歩いている様子でしたが、一人、また一人と会話が生まれ、その輪が徐々に拡がり、お昼頃にはみんなで話せる関係が築けていました。故、早々に揉め事が起きるグループもありました。お昼を途中で済ませ、峠を越えて下り、集落が見えてくるとみんなのテンションも一気に上がってきました。自然と「頑張れー！」と仲間を応援する声も出てきました。そして、見事全てのグループが長い道のりを歩ききり、ゴールの施設に到着する事が出来ました。施設に到着し、少し休憩した後、オリエンテーションを行いました。今までに来た事のあるメンバーもおられ、所々で教えたり、声をかけたりされている様子が伺えました。夕食は食堂で済ませました。ここの施設はバイキング形式なので、美味しいと思ったものや、好物を何度もおかわりされていました。夜のプログラムは、ナイトハイクを予定していましたが荒天のため変更し、3日目のプログラムである『釘ナイフ作り』を行ないました。作り方やコツ、注意点を聞き、各自ひたすら金槌で叩き続けました。強く、何度も叩き続けないといけないので、外してしまったり、違うところを叩いてしまったりなかなか思うようにいきません。続きは3日目に行います。二日目は野外炊事にキャンプファイヤーと大きなプログラムが目白押しです。万一の時に備えるワザを沢山伝えていきます。

二日目： 沢山のチャレンジを行う一日です。朝食はパックドッグを作りました。ここでは、「サランラップ」を活用して、お皿やスプーンなど食器を包み、洗わずに使うという事を学びました。続いて野外炊飯を行いました。いつもはマッチやチャッカマンを使って火を付けて行いますが、今回は『火起こし』で火を得ることにチャレンジしました。火起こしはほとんどが初体験で、なかなか火が起きません。諦めかけているメンバーもいましたが、同じグループの友達が必死に励ましたり、声掛けをしたりして、みんなで頑張りました。一つのグループに火が付くとそれに勢い付き、次々とグループに火が付きました。起こした火をろうそくに移し、その火を使って、かまどに火を起こしました。お昼のメニューは「カレー」と定番メニューですが、作り方に様々なチャレンジが



あります。今回、刃物は一切使わず、代用となるもので調理を行いました。包丁の代わりに「プリペイドカード」を使い、ピーラーの代わりに「アルミホイール」を使用しました。また飯盒ではなく、「ジップロック」を使って米を炊きました。初めてだらけのプログラムにみんな悩み、考えながら、カレーを作りました。米が炊き上がり、カレーが出来上がるまで、いつもの倍以上の時間がかかりましたが、それでも達成感と満足感は十分にあったように思います。さすがに疲れの色も見えていたので、少し振り返りを含めた休憩を取りました。みんなでキャンプファイアの薪組みをし、夕食を済ませた後、お楽しみのキャンプファイアです。今回、あまりレクリエーションやあそびがなかったため、ここぞという場で楽しく盛り上がりました。



三日目： キャンプ最終日、朝から片付けのため荷物整理や荷物移動、身支度などやる事が沢山ありました。ようやく落ち着いて朝ごはんをいただきました。朝食は炊き出しで焼き魚に漬物、味噌汁に白ご飯とシンプルですが、昨日の食事と比べていかに裕福で贅沢かが伝わりました。朝食後、宿泊していたロッジの清掃を行い、最後のチャレンジ、『釘ナイフ』の完成を目指しました。初日とは違い、明るく天気もいいので、どこの場所で叩くとやりやすいかをしっかりと考え選び、ひたすら金槌で釘を叩き始めました。何度も何度も叩いているうちに徐々に平らになり、それをバーナーで赤くなるまで熱した後叩き、ナイフとなる基礎が完成しました。それから金ヤスリで磨き、刃の部分を決めると、鋭利を付けるために削りました。ここまでくるとかなりナイフの形になってきているのでみんなの作業も捗ります。形が整ったら、もう一度バーナーで熱し、水で一気に冷やすことで硬化させました。それを最後、紙やすりで磨き、光沢を付け完成させました。どのナイフも形が異なっており、手作り感が十分にじみ出ていました。あっという間に施設を出発する時間になりました。荷物を積み込み、施設の方にお礼を告げ、施設を後にしました。帰りのバスでは疲れたので、みんなゆっくりと休まれています。

<キャンプ総括>

キャンプのタイトルに『チャレンジ』という言葉があるように今年も沢山のチャレンジをしていただきました。今回はお馴染みのプログラムをいつもと手法を変え行ったので、メンバー全員が初めて体験する形となりました。その中でも今までのキャンプで体験した事を活かそうと頑張られている姿を何度も伺えました。またそれを共有しようというも以上に会話が生まれていたように感じます。会話が増えると揉め事も増えます。意見交換から始まり、言い合い、揉め事、喧嘩へと発展していきます。我々はその進展をどこまで見守り、どのタイミングでアドバイスを送るのか、いつも悩み、考えています。この答えに『必ず』の正解はありません。人や場所、年齢、時間など条件が変わればアプローチの仕方が変わるからです。O.C.Cはメンバーにとって容易なキャンプでなく、様々なチャレンジがあります。それと同時に我々にもチャレンジが課せられます。こうして、みんなでチャレンジを乗り越え、また一つ成長出来たのではないのでしょうか？また来年のO.C.Cがとても楽しみです。

(竹中 哲郎)